

人と違うことをする

「人様のしてるをそのまま真似るのは、京都人のプライドが許しまへんねん」
堀場社長

安易にパクられる心配がないから、経営者同士・技術者同士で情報交換ができるのだろう。
バリでガムランの舞い手は、技をどんどん人に伝えてしまうと聞いたのを思い出した。

福田金属さんも普通に考えたら、鉄に手を出しそうなもの。あえて銅やチタンなど辺縁系の金属に特化することで、技術に磨きをかけているように思われた。

仕事が好き

釜士・大西先生のお話を聞いていると、内容がどうのというより釜作りがとにかく好きでたまらん、という空気が伝わってきた。20年越しで発注者が忘れちゃうぐらいなんだから、自分だけのこだわりで、とにかく良いものを作りたい情熱が彼を突き動かしているのだと思う。

非鉄金属について話している時の梶田様にも同じ空気を感じた。お好きなんだなあ、と。さらに銅の電解ラインで解説してくれた男性。この仕事がとことん好きなんだなあ、と、オーラ出てる気がした

細部にとことんこだわる

釜士・大西先生は言うに及ばず。誰も頼んでないのに、とことん完璧を目指す。そもそも、親に言われて継いでいるんじゃない。むしろ「入るな」と言われてた仕事場だからこそ、興味がわいてしょうがなかったのだろうか。近藤祖父の柘榴。父の碧。高広氏の線。半端ではないこだわりが価値を生む。東京では無理なんだろうか。雑駁にマस्पロするしかないんだろうか。京都特有なのか、他の地でも可能なのか、背景もろとも考えてみたい。

意外に手仕事

大西先生・近藤先生など芸術家は、自らの手で生み出すのがそりゃ当然なのかもしれない。でも、福田さんの電極版も人が直接扱っている。堀場さんのプリント基板も多くが手仕事の半田付け。そして、その成果をちゃんと資格として認定し、皆の前に笑顔で貼り出す。ずっとそこに貼ってあるんだもん、やる気が沸きまわな。それに自分に恥じないためにもっと頑張る気になるでしょう。「スイッチ、ポン！」ではない世界の笑顔を見た気がした。

ふらっと寄った居酒屋が、あの「池田屋」だったなんて点は、たしかに他の町では太刀打ちできない事実ではある。でも京都だから・・・京都以外では出来ない、なんて思いたくはない。人の集合体が街である以上、東京だからこそ生み出せるものづくりもあると思う。やたらにデカイ街だから逆に気付かないだけで、中型企業・小型企業の力を、さらに根源的に探求してみたいと思う。